

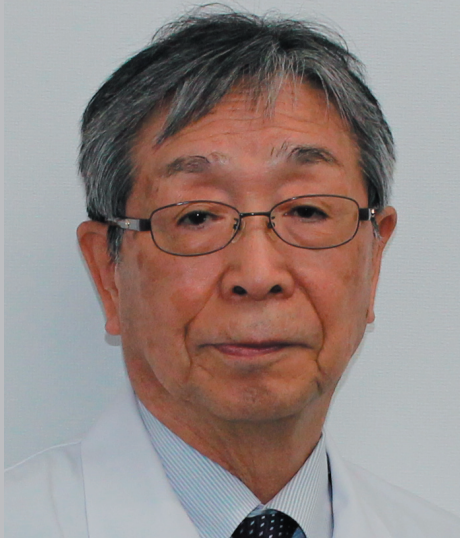
道警の嘱託医として1967年から検屍を続けている功績が高く評価された。2005年の褒章（保健衛生功労）に続く栄誉だ。



最も記憶に残るのは、札幌の依頼で東日本大震災発生翌日に現地に赴き、「寒さや余震の中で3日間検屍した」と振り返る。

春の叙勲で瑞宝双光章を受けた

柳山 悠紀士氏



75〜77年の道立江差病院赴任時に、函館方面本部の解剖を一手に引き受けたことも印象深いとい

う。警察嘱託医の魅力は、死体から事件性の有無を見極め、死亡原因を追求する検屍以外にも、虐待や傷害事件被害者の生体検査、裁判所の令状に基

法医学の魅力を次代に

づく薬物中毒者への採尿や採血など、生きている人間に携わる幅広さも、半世紀以上続ける原動力となっている。

法医学医における課題は、慢性的な人手不足。法医学や検屍の魅力を伝える機会に恵まれず、若い人たちが興味を持たずに担い手がいない悪循環が続いている。

「社会の安全を守る、意義深い仕事を次代に伝えていければ」と強く願っている。

1940年生まれ、三笠市出身。札幌ひばりが丘病院名誉顧問。